

刀銘経家 (伝 毛利元就寄進)



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 吉藤 妃花梨

シリーズ 「博物館コレクション」第19回



刀 銘 経家

文明18(1486)年 刃長:60.0cm
清神社(歴史民俗博物館寄託)

この刀は、毛利元就が清神社に寄進したものと伝えられており、銘から日本刀の一大生産地であった備前国(現在の岡山県)長船で作刀していた刀工経家の作であることが分かります。

戦乱と刀
この刀は打刀と呼ばれるもので、応仁(1467~1469年)の頃にその姿が完成したとみられています。この時期の戦闘は、従来の騎馬戦から大人数の歩兵を動員するものに変化していたため、刀は二尺二寸(約67cm)前後でがっちりした姿を持つ打刀が流行するようになりました。太刀が刃を下にして腰にひもで吊るす一方、打刀は刃を上に向けて腰に差す様式のもので、江戸時代以降「刀」と言えば打刀のことを指すようになります。

りました。平安時代から室町時代前期まで主流であった太刀は、抜くこと、斬ることの2段階の動作が必要でしたが、刀は抜くことと斬ることが一連となり、刀を抜くと同時に斬りつけることが可能となりました。

打刀の出現は、戦闘方法の変化や戦闘がより激しくなったこと、表れであり、この刀が作られた時期や姿からも当時の戦乱の状況が伺えます。

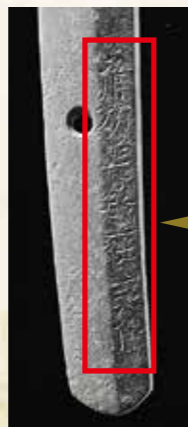
清神社と毛利氏
清神社は古代から祇園社として吉田町に鎮座している神社で、中世には毛利氏の祈願所となっていました。毛利氏歴代の当主から崇敬を受け、多くの棟札や奉納品が存在しています。

この刀が打たれた文明18(1486)年は元就の父弘元が当主でした



裏銘

文明十八年二月日



表銘

備州長船経家作

が、この刀が家中で伝わり、後に元就が清神社に寄進した可能性も考えられます。残念ながら寄進された年月日は不明ですが、元就は毛利一族が祈願所として崇敬していた清神社に、戦勝祈願のためこの刀を寄進したのかもしれない。



秋の叙勲 受章おめでとうございます。

旭日小綬章



元市議会議員

つかもと ちかし
塚本 近さん(高宮町)
平成9年9月から高宮町議会議員、合併後は令和2年11月まで安芸高田市議会議員として、市議会議員長などを歴任し、23年にわたり地方自治の発展に尽力されました。

瑞宝双光章



元公立中学校長

なかむら けいすけ
中村 計助さん(甲田町)
吉田、美土里、甲田中学校3校で校長を歴任し、学校教育の充実発展に貢献。退職後は歴史民俗博物館長として、歴史資料・文化財の保存・活用事業に尽力されました。

藍綬褒章



調停委員

おだに いさと
尾谷 勇人さん(美土里町)
広島地方裁判所・広島簡易裁判所・三次簡易裁判所の調停委員として民事の調停に従事。さまざまな紛争の解決に尽力され、調停制度の普及・発展に貢献されました。

元市消防団長

いしがみ ひろし
(故)**石神 博さん**(八千代町)
昭和53年に八千代町消防団に入団。以降42年間にわたり消防団活動に従事され、安芸高田市消防団長として、第一線で消防活動に尽力されました。

第97回 広島県畜産共進会 「冬季枝肉の部」



最優秀賞受賞

株式会社高田ファーム(甲田町)

やなぎはらりょうへい
代表取締役 **柳原 涼平さん**

産肉能力、肥育技術、生産効率が高く評価され、出品したひらゆりかつ平百合勝号(黒毛和牛)が最優秀賞を受賞しました。

令和3年度 スポーツ推進委員 功労者表彰



たなか ふさと
田中 房人さん(高宮町)

スポーツ推進委員として地域スポーツの普及・振興に貢献したことを評し、表彰されました。

市内全小中学校へのマスク寄贈

安芸高田市医師会・歯科医師会、広島県薬剤師会三次支部がサージカルマスク(92,000枚)を寄贈されました。マスクは市内全小中学校(14校)に配布し、新型コロナウイルス感染症の予防対応として活用します。

